

# キリスト教保育

年主題

ともにつむぎだす

〜希望の中で〜

巻頭言

遊ぶときには遊ぶ

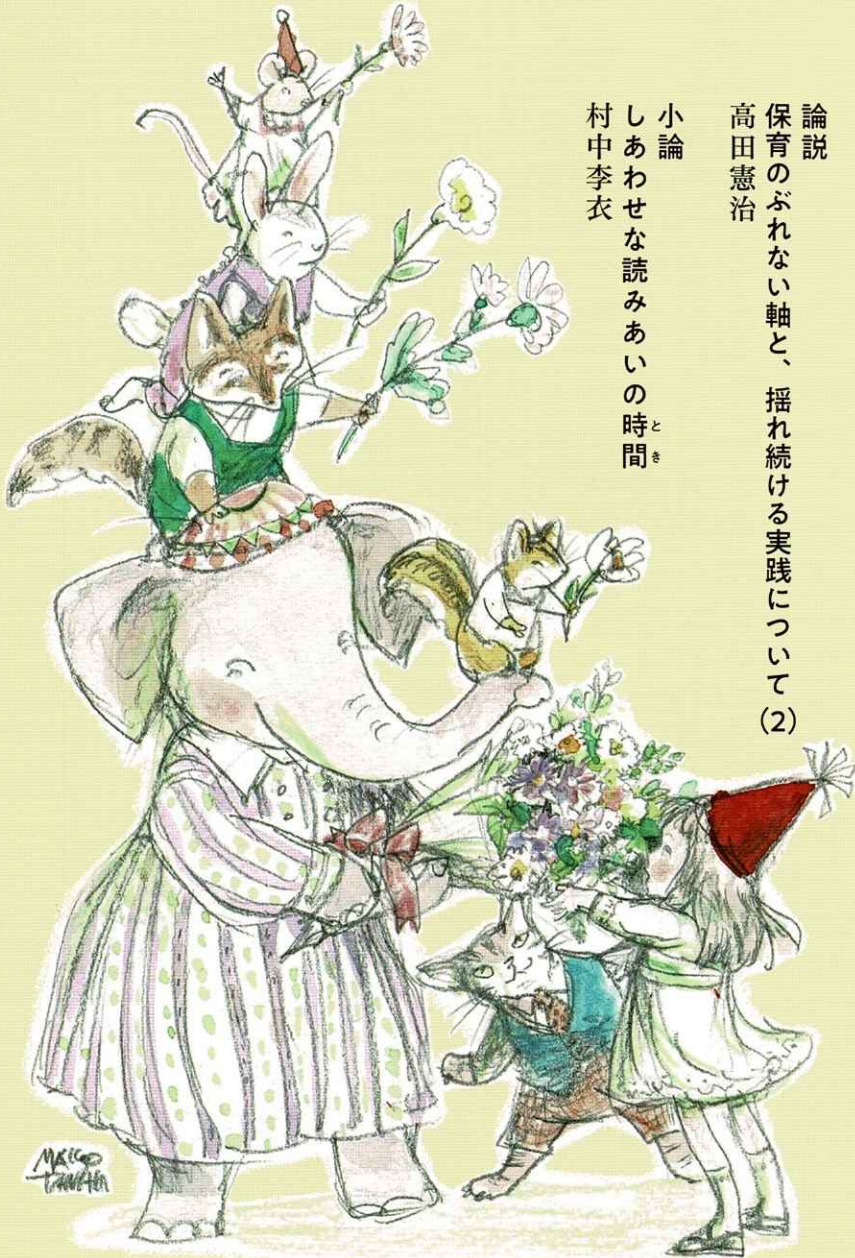
中島賢介

論説

保育のぶれない軸と、揺れ続ける実践について (2)  
高田憲治

小論

しあわせな読みあいの時間 とき  
村中李衣



Miko Tanaka

3

2024 MAR.

神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、

新共同訳聖書 ヨハネの手紙一1:7

「交わり」という言葉は、今月の聖書・ヨハネの手紙のお気に入りの言葉であります。

ヨハネの手紙では、私たちの交わりは「御父と御子イエス・キリストとの交わり」（密接な関係）に基づく完全な一致（交わり）であると性格づけをされているのです（ヨハネの手紙一1:3）。また、ヨハネによる福音書によれば、「イエスはまことのぶどうの木、ぶどうの枝は木につながっていなければ、自分では実を結ぶことはできないのです。もし実を結ぼうとするならば……すなわち互いに愛し合うこと……イエスにつながっていなければなりません」（ヨハネによる福音書15章）。これが基本です。

ヨハネの手紙一5～10には「神との交わり」と「光の中を歩む」という2つの言葉があります。これらは互いに原因であり、また結果であるという関係にあります。つまり、誰であれ本当に神との交わりを求めて生きようとする者には、光の中を歩む以外に歩み方はないことを示しています。5節には「神は光であり、神には闇が全くない」とあって、「神は光」であると、はっきり言っています。神の本質を、自然の光の性質になぞらえ、視覚化しているわけですが、神を人間の言葉で、表現しつくせるものではありません。ですから人間の言葉を借用した概念で、神のことを語っているにすぎないのです。

ヨハネの手紙は、「わたしたちの交わり」という横の関係が、「御父と御子イエス・キリストとの交わり」という縦の関係に結びついていることを、強調しているのです。これが「交わり」の道筋であります。

友だちとの交わりの中で、この一年、一人ひとりの子どもたちが、どのような成長をしたでしょうか。単なる集団づくりの手段としての「交わりの生活」ではなく、イエスさまと出会った子どもたちが、光の中を歩んで、互いの交わりを持ち続けてくれるようにと祈るばかりです。子どもたちは「すべて光の子、昼の子だからです」（テサロニケの信徒への手紙一5:5）。

（宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長）  
1990年『キリスト教教育』誌3月号より

# キリスト教保育

第660号3月号



年主題

## ともにつむぎだす

～希望の中で～

	幼子とともにキリストへ	2	〔連載〕子どもの健康 丸尾敏之	42
	目次	3	〔連載〕キリスト教の行事 愛の園保育園	44
	〔巻頭言〕遊ぶときには遊ぶ 中島賢介	4	子どもと賛美するために	47
	〔論説〕		目福口福耳福 西尾純子	48
	保育のぶれない軸と、		礼拝のお話 菊野秀樹	49
	揺れ続ける実践について(2) 高田憲治	6	風 山根眞三 編集子 加藤早恵	60
	〔小論〕		連盟だより	61
	しあわせな読みあいの時間 村中李枝	16	2023年度 総目録	62
	聖書に聞く・お話 山本香織	20	2024年度 年主題・年主題聖句	65
			月聖句表 年・月カリキュラム表	66
	〔カリキュラム〕			
	3月 月のねがい表	23		
	心にとめて 寺田千栄	24	表紙絵 田中楨子	
	実践報告 第一平和保育園	26	カット 中敵治子 こだいみのり	
	実践からの学び 布村志保	31	松成真理子 金井ユリ	
	心にとめて 大瀬知子	32		
	実践報告 愛星幼稚園	34		
	実践からの学び 相川徳孝	39		
	絵本のとびら 保木本直子	40		
	子どもの祈り	41		

